

ディプロマポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 技術者としての広範な専門的知識をもち、グローバルで多面的な視野に立って、倫理観、責任感を持って高度な機械工学分野の課題に取り組み、開発した技術が社会や自然環境に及ぼす影響に配慮しながら活動でき、課題解決ができる。 機械工学の課題解決において、論理的で確かな表現の文章能力を有し、プレゼンテーション能力および国際的コミュニケーション能力を身に付け、探究した成果を正確にアピールできる。 										101 単位																																																																																																																																											
相当単位数合計		15 単位										20 単位										14 単位										10 単位										12 単位										6 単位										8 単位										8 単位										8 単位										101 単位																																																											
M2 M1		<p>● 必修科目</p> <p>※ 修了単位に含めない</p> <p>○ 不開講科目</p>										<p>※ インターンシップ 2</p> <p>グローバルテクノロジー特論b 1</p> <p>材料・デバイス開発実務特論 3</p> <p>グローバルテクノロジー特論a 1</p> <p>技術経営特論 2</p> <p>外国語特論 2</p>										<p>エンジニアリング・コミュニケーション特論 1</p> <p>ロボティクス特論 2</p> <p>CAD/CAM特論 2</p> <p>自動車工学特論 2</p> <p>グローバル・リーダーシップ特論 2</p> <p>フィールド研究 4</p> <p>フィールドプラクティス 4</p>										<p>半導体エレクトロニクス特論 2</p> <p>表示デバイス工学特論 2</p> <p>フォトニクス工学特論 2</p> <p>電子物性特論 2</p>										<p>ソフトウェア特論 2</p> <p>通信システム・方式特論 2</p> <p>計算機工学特論 2</p> <p>電磁波工学特論 2</p> <p>情報工学特論 2</p>										<p>エネルギー・環境工学特論 2</p> <p>バルブパワー工学特論 2</p> <p>電力工学特論 2</p> <p>パワーエレクトロニクス特論 2</p> <p>メカトロニクス特論 2</p> <p>プラズマ工学特論 2</p>										<p>最適システム工学特論 2</p> <p>インテリジェントメカニクス特論 2</p>										<p>材料設計工学特論 2</p> <p>振動工学特論 2</p> <p>材料実験力学特論 2</p> <p>機能材料工学特論 2</p>										<p>エネルギー変換工学特論 2</p> <p>内燃機関特論 2</p> <p>流体工学特論 2</p> <p>伝熱工学特論 2</p>										<p>加工学特論 2</p> <p>機械制御特論 2</p> <p>接合工学特論 2</p> <p>航空工学特論 2</p>										年間履修上限単位数																																																	
分野		共通横断										専門横断										光・エレクトロニクス										情報・通信										エネルギー・機器										制御・システム										材料・機械力学										熱・流体										設計・製作										101 単位																																																											
カリキュラムポリシー		<ul style="list-style-type: none"> 「専門」の機械工学分野「材料・機械力学」、「熱・流体」、「設計・製作」を置き、学士課程教育で培ったエンジニアとしての能力をさらに高度化する。 複雑・多様化する機械工学の課題を解決する、行動力ある実践的な能力、現象の分析・理解、対策の考察、革新的な機械システム構築あるいは性能評価・機能創生することのできる能力を修得する。また、複雑・多様化する機械工学分野の研究課題を積極的に遂行する能力を醸成する。 																																								年間履修上限単位数																																																																																																													
アドミッションポリシー		<p>機械工学の専門知識を基礎として、電気電子工学の知識を加味することで、グローバルで多面的な視野に立ち、高い倫理観と責任感を持って現実の問題に取り組める高度な専門知識を有した実践的技術者を養成する。</p> <p>〈求める人物像〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械工学の基礎知識を具体的な研究課題に適用して、実験や解析した結果を工学的に考察する能力を深化させようとする意欲のある人 論理的な表現力、プレゼンテーション能力、国際的コミュニケーション能力を磨くようする意欲のある人 与えられた制約の下で研究を実施してまとめる創造的なデザイン能力を深化させようとする意欲のある人 人間的な成長および自己実現をめざす向上心をもち、共同作業の重要性を認識し実行できる人 																																								年間履修上限単位数																																																																																																													
ディプロマポリシー		<p>4年以上在学して所定の単位を修得し、授業や卒業研究を通じて、下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。</p> <p>「工学部」</p> <ol style="list-style-type: none"> 実践力のある専門的技術者となるべく、在学中だけでなく生涯にわたって主体的に学修活動を積み重ねる関心と意欲を保持できる。〔関心・意欲〕[主体的に生涯学習を継続する意欲と関心] 人文社会科学や自然科学・情報技術など、技術に求められる幅広い職責とスキルを身につけそれを活用できる。〔知識・理解・技能〕[技術者に求められる文・理・情報系の素養] 専門分野の知識・技術を体系的に理解し、技術や時代の要請に応じてそれらを実践的に適用できる。〔理解・応用・技能〕[専門分野の知識・技術(詳細は学科DP)] 技術者および社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を備え、他者の意見・意向を正確に把握するとともに、自らの意見・意向を的確に表現し、相互理解のもとで議論することができる。〔協働・表現〕[相互に理解し議論するコミュニケーション能力] 社会的な課題の解決に向けて、他者と積極的に協働して取り組むことができる。〔意欲・協働〕[他者との協働による課題解決力] 地球的な視野に立ち、持続的な社会の維持・発展に向けた技術者としての使命感や倫理観を備え、社会に能動的に貢献する行動ができる。〔理解・応用・倫理〕[社会に対し能動的に貢献する行動力] <p>◆注:〔3〕を明確化したものが、各学科のDPとなる</p> <p>「機械工学部」</p> <p>機械工学部は、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)技術者としてグローバルで多面的な視野に立ち、高い倫理観、責任感を持って課題に取り組み、技術が社会、自然環境におよぼす影響を自分なりに考慮して行動することができる。〔倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮〕[倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮]</p> <p>(B)数学、物理学などの自然科学や情報処理と工学の基礎知識を修得し、それを基礎的な課題に対して適用し分析、考察することができる。〔自然科学・工学の基礎知識応用能力〕[自然科学・工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(C)機械工学の基礎知識を修得し、理解することができるとともに、与えられた工学的な課題に対してそれらの知識を適用、応用して考察することができる。〔機械工学の基礎知識応用能力〕[機械工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(D)機械工学の専門知識を自分のものとし、得られた情報や学んだ科学・工学の知識や技術をベースに、与えられた各種制約の中で課題に要求される解決手法を導き、創造的なデザイン能力を身につけることにより、それを計画的に実現したりまとめたりすることができる。〔デザイン能力〕[デザイン能力]</p> <p>(E)実践に必要な設計・生産技術(ものづくりの技術)を学び、それを具体的な課題へ適用するとともに、最新の工学的ツールを駆使して問題を解決することができる。〔実践的な工学知識の遂行能力〕[実践的な工学知識の遂行能力]</p> <p>(F)多面的な視点を持って他者と協力してチームで作業を行うために必要な、自分の意見を明確に他者に伝える記述力およびプレゼンテーション能力を持ち、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を理解してもらうコミュニケーション能力を身に付けることができる。〔コミュニケーション能力〕[コミュニケーション能力]</p> <p>(G)工学の発展に関心を持ち、常に最新の情報を収集するとともに、それが自分に与えられた課題にどう反映できるかを考え、自主的にかつ継続的に生涯学習を続けようとする意欲がある。〔情報収集・生涯学習の継続能力〕[情報収集・生涯学習の継続能力]</p> <p>◆注:〔〕はディプロマ・サブメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示</p>																																								年間履修上限単位数																																																																																																													
分野別到達目標		<p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基本的知識を理解・応用し、自然環境との共生を念頭にいた思考・判断力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。</p>										<p>工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力として、数学・物理や他の自然科学関連の基本的知識を理解・応用し、自然環境との共生を念頭にいた思考・判断力が発揮できるとともに、心身の健康を維持増進する方策を備えている。</p>										<p>数学や他の自然科学関連のより複合的な知識を理解・応用し、工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力や、自己の実践的な活動環境で発揮できる。</p>										<p>グローバル化の時代に対応できる社会人の基礎的素養・能力や、工学的観点から社会を持続的に発展させる基礎的素養・能力や、自己の実践的な活動環境で発揮できる。</p>										<p>社会における機械工学の位置付けと機械工学技術の役割を理解し説明できる。機械工学基礎、実習では専攻で学習する専門科目の理解を深める。コンピュータを用いた情報演習では、プログラミングを機械工学における主要な問題に適用し、工学上の問題を数値解析的に分析できる。開発プロセス発展演習では、グループで一連の機械ものづくりを体験し、発想力や想像力を身に付ける。工学コミュニケーション英語応用では、英語を用いて情報交換できるコミュニケーション能力を身に付ける。</p>										<p>機械構造物に作用する力に対して内部の形状や変形を明らかにし、適切な材料、形状や寸法を定める方法を説明できる。また、流体の運動を支配する法則や流体学的現象などを学び、流体の運動量や力などの計算方法についても説明できる。</p>										<p>熱を仕事に変換する法則や伝熱現象などを学び、サイロにおける熱効率や熱の移動量などの計算方法を説明できる。また、流体の運動を支配する法則や流体学的現象などを学び、流体の運動量や力などの計算方法についても説明できる。</p>										<p>測定的基本的手法、センサ種類とその特性、信号処理技術を説明できる。またロボットの運動学、制御系の基本的設計方法についても説明できる。</p>										卒業に必要な単位数																																																																					
相当単位数合計		-										-										36 単位										18 単位										14 単位										12 単位										10 単位										90 単位																																																																															
進年		2 5 4										4										3										2										1										-										0 単位																																																																																									
前期・後期		<p>哲学(2)</p> <p>物理学(2)</p> <p>機械学(2)</p> <p>文学(2)</p> <p>日本語の歴史(2)</p> <p>法學(日本語憲法)(2)</p> <p>経済学(2)</p> <p>経営学(2)</p> <p>心理学(2)</p> <p>日本の伝統と文化(2)</p> <p>国際関係論(2)</p> <p>日本の文化と社会Ⅰ(2)</p> <p>日本の文化と社会Ⅱ(2)</p> <p>オーストラリア文化Ⅰa(1)</p> <p>オーストラリア文化Ⅰb(1)</p> <p>工学コミュニケーション英語基礎a(1)</p> <p>工学コミュニケーション英語基礎b(1)</p> <p>キャリア・イングリッシュⅠa(1)</p> <p>キャリア・イングリッシュⅠb(1)</p> <p>キャリア・イングリッシュⅡa(1)</p> <p>キャリア・イングリッシュⅡb(1)</p> <p>英語プレゼンテーションⅠ(1)</p> <p>英語プレゼンテーションⅡ(1)</p> <p>中国語コミュニケーションⅠ(1)</p> <p>中国語と現代中国事情Ⅰ(1)</p> <p>生涯スポーツⅠ・Ⅱ(各)(1)</p>										<p>物理学(2)</p> <p>物理学(2)</p> <p>微分方程式Ⅰ(2)</p> <p>微分方程式Ⅱ(2)</p> <p>工学倫理(2)</p> <p>ものづくりマネジメント技術を活かす経営(2)</p> <p>知的財産法概論(2)</p> <p>品質管理(2)</p> <p>確率と統計Ⅰ(2)</p> <p>確率と統計Ⅱ(2)</p> <p>宇宙・地球・生命-探究演習(1)</p>										<p>級数とフーリエ解析(2)</p> <p>ベクトル解析(2)</p> <p>線形代数Ⅲ(2)</p> <p>線形代数Ⅳ(2)</p> <p>複素解析Ⅰ(2)</p> <p>複素解析Ⅱ(2)</p> <p>応用数学Ⅰ(2)</p> <p>応用数学Ⅱ(2)</p> <p>実証化学(2)</p> <p>地球システムと人間(2)</p> <p>環境化学(2)</p> <p>人間発達と人権(2)</p> <p>教育原論(2)</p>										<p>キャリア形成支援(1)</p> <p>インターンシップ(2)</p> <p>グローバルテクノロジー論a(1)</p> <p>グローバルテクノロジー論b(1)</p>										卒業研究										-										-										-										-										-																																																											
前期・後期		<p>世界と人間(2)</p> <p>文章表現基礎(2)</p> <p>ペーシク・イングリッシュⅠa(1)</p> <p>ペーシク・イングリッシュⅠb(1)</p> <p>オーストラリア文化Ⅰa(1)</p> <p>オーストラリア文化Ⅰb(1)</p> <p>海外語学研修(2)</p> <p>日本語Ⅰ(2)</p> <p>日本語Ⅱ(2)</p> <p>健康体育Ⅰ(1)</p> <p>健康体育Ⅱ(1)</p>										<p>解析学Ⅰ演習(1)</p> <p>解析学Ⅱ(2)</p> <p>解析学Ⅲ演習(1)</p> <p>解析学Ⅳ(1)</p> <p>解析学Ⅴ演習(1)</p> <p>線形代数Ⅰ・Ⅱ(各)(2)</p> <p>物理学a・b(各)(2)</p> <p>物理学実験(2)</p> <p>化学(2)</p> <p>地球科学(2)</p> <p>生物科学(2)</p> <p>基礎情報処理Ⅰ・Ⅱ(各)(1)</p> <p>遠川学Ⅰ(1)</p> <p>開発プロセス基礎演習(1)</p>										<p>キャリアデザイン(1)</p> <p>OIT概論(1)</p>										<p>先端技術論 2</p> <p>計算力学 2</p> <p>実験計画法 2</p> <p>● 機械工学実験a 1</p> <p>● 機械工学実験b 1</p> <p>● 機械工作実習b 2</p> <p>● 機械のデータサイエンス演習Ⅱ 1</p> <p>● 機械のデータサイエンス演習Ⅰ 1</p> <p>● 機械工作実習a 2</p> <p>● 研究推進概論 1</p> <p>● 機械の数学 2</p> <p>● 研究推進ゼミナール 1</p> <p>● 機械基礎ゼミナール 1</p>										<p>● 機械のAI 2</p> <p>● 自動車工学 2</p> <p>● 工学コミュニケーション英語応用 2</p> <p>● 開発プロセス発展演習 4</p> <p>● 航空・宇宙工学 2</p> <p>● 国際設計工学実習 1</p> <p>● 機械工学入門b 2</p> <p>● 機械工学入門a 2</p>										<p>● CAD/CAM概論 2</p> <p>● 3次元CAD演習 2</p> <p>● 生産システム工学 2</p> <p>● 機械製法Ⅱ 2</p> <p>● 設計製図Ⅱ 1</p> <p>● 設計製図Ⅰ 1</p> <p>● 機械設計法 2</p> <p>● 機械材料 2</p> <p>● 材料力学Ⅱ 2</p> <p>● 熱工学 2</p> <p>● 熱力学 2</p> <p>● 流体力学 2</p> <p>● 計測と制御 2</p>										<p>● 振動工学 2</p> <p>● 材料力学Ⅲ 2</p> <p>● 材料強度学 2</p> <p>● 機械力学応用 2</p> <p>● 機械力学 2</p> <p>● 材料力学Ⅰ 2</p> <p>● 熱工学 2</p> <p>● 熱力学 2</p> <p>● 流体力学 2</p> <p>● 計測と制御 2</p>										<p>● メカトロニクス 2</p> <p>● 基礎電気回路 2</p> <p>● ロボット工学 2</p> <p>● システム制御 2</p>										44 単位																																																																					
前期・後期		1										2										1										-										-										-										-										-										-																																																																					
前期・後期		<p>「工学部ディプロマ・ポリシー」</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のよう方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、履修するものと、科目の達成を定量的に評価する科目を定める。</p> <p>1)人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</p> <p>2)機械・英語教育によって、英語による長期的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>3)必修・選択・専攻必修を科目によって、専門的知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</p> <p>4)実験・実習・探究演習(Project Based Learning、PBL)科目によって、自立的・継続的に学修する能力、論理的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働の意識を養う。</p> <p>5)技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。</p> <p>6)卒業研究に関する科目によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力ある専門的技術者として必要な能力を養う。</p> <p>◆注:〔3〕(4)〔5)〔6)を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>										<p>「機械工学部」</p> <p>機械工学部は、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)技術者としてグローバルで多面的な視野に立ち、高い倫理観、責任感を持って課題に取り組み、技術が社会、自然環境におよぼす影響を自分なりに考慮して行動することができる。〔倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮〕[倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮]</p> <p>(B)数学、物理学などの自然科学や情報処理と工学の基礎知識を修得し、それを基礎的な課題に対して適用し分析、考察することができる。〔自然科学・工学の基礎知識応用能力〕[自然科学・工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(C)機械工学の基礎知識を修得し、理解することができるとともに、与えられた工学的な課題に対してそれらの知識を適用、応用して考察することができる。〔機械工学の基礎知識応用能力〕[機械工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(D)機械工学の専門知識を自分のものとし、得られた情報や学んだ科学・工学の知識や技術をベースに、与えられた各種制約の中で課題に要求される解決手法を導き、創造的なデザイン能力を身につけることにより、それを計画的に実現したりまとめたりすることができる。〔デザイン能力〕[デザイン能力]</p> <p>(E)実践に必要な設計・生産技術(ものづくりの技術)を学び、それを具体的な課題へ適用するとともに、最新の工学的ツールを駆使して問題を解決することができる。〔実践的な工学知識の遂行能力〕[実践的な工学知識の遂行能力]</p> <p>(F)多面的な視点を持って他者と協力してチームで作業を行うために必要な、自分の意見を明確に他者に伝える記述力およびプレゼンテーション能力を持ち、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を理解してもらうコミュニケーション能力を身に付けることができる。〔コミュニケーション能力〕[コミュニケーション能力]</p> <p>(G)工学の発展に関心を持ち、常に最新の情報を収集するとともに、それが自分に与えられた課題にどう反映できるかを考え、自主的にかつ継続的に生涯学習を続けようとする意欲がある。〔情報収集・生涯学習の継続能力〕[情報収集・生涯学習の継続能力]</p> <p>◆注:〔〕はディプロマ・サブメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示</p>										<p>「工学部ディプロマ・ポリシー」</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のよう方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、履修するものと、科目の達成を定量的に評価する科目を定める。</p> <p>1)人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</p> <p>2)機械・英語教育によって、英語による長期的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>3)必修・選択・専攻必修を科目によって、専門的知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</p> <p>4)実験・実習・探究演習(Project Based Learning、PBL)科目によって、自立的・継続的に学修する能力、論理的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働の意識を養う。</p> <p>5)技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。</p> <p>6)卒業研究に関する科目によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力ある専門的技術者として必要な能力を養う。</p> <p>◆注:〔3〕(4)〔5)〔6)を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>										<p>「機械工学部」</p> <p>機械工学部は、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)技術者としてグローバルで多面的な視野に立ち、高い倫理観、責任感を持って課題に取り組み、技術が社会、自然環境におよぼす影響を自分なりに考慮して行動することができる。〔倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮〕[倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮]</p> <p>(B)数学、物理学などの自然科学や情報処理と工学の基礎知識を修得し、それを基礎的な課題に対して適用し分析、考察することができる。〔自然科学・工学の基礎知識応用能力〕[自然科学・工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(C)機械工学の基礎知識を修得し、理解することができるとともに、与えられた工学的な課題に対してそれらの知識を適用、応用して考察することができる。〔機械工学の基礎知識応用能力〕[機械工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(D)機械工学の専門知識を自分のものとし、得られた情報や学んだ科学・工学の知識や技術をベースに、与えられた各種制約の中で課題に要求される解決手法を導き、創造的なデザイン能力を身につけることにより、それを計画的に実現したりまとめたりすることができる。〔デザイン能力〕[デザイン能力]</p> <p>(E)実践に必要な設計・生産技術(ものづくりの技術)を学び、それを具体的な課題へ適用するとともに、最新の工学的ツールを駆使して問題を解決することができる。〔実践的な工学知識の遂行能力〕[実践的な工学知識の遂行能力]</p> <p>(F)多面的な視点を持って他者と協力してチームで作業を行うために必要な、自分の意見を明確に他者に伝える記述力およびプレゼンテーション能力を持ち、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を理解してもらうコミュニケーション能力を身に付けることができる。〔コミュニケーション能力〕[コミュニケーション能力]</p> <p>(G)工学の発展に関心を持ち、常に最新の情報を収集するとともに、それが自分に与えられた課題にどう反映できるかを考え、自主的にかつ継続的に生涯学習を続けようとする意欲がある。〔情報収集・生涯学習の継続能力〕[情報収集・生涯学習の継続能力]</p> <p>◆注:〔〕はディプロマ・サブメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示</p>										<p>「工学部ディプロマ・ポリシー」</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のよう方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、履修するものと、科目の達成を定量的に評価する科目を定める。</p> <p>1)人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</p> <p>2)機械・英語教育によって、英語による長期的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>3)必修・選択・専攻必修を科目によって、専門的知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</p> <p>4)実験・実習・探究演習(Project Based Learning、PBL)科目によって、自立的・継続的に学修する能力、論理的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働の意識を養う。</p> <p>5)技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。</p> <p>6)卒業研究に関する科目によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力ある専門的技術者として必要な能力を養う。</p> <p>◆注:〔3〕(4)〔5)〔6)を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>										<p>「機械工学部」</p> <p>機械工学部は、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)技術者としてグローバルで多面的な視野に立ち、高い倫理観、責任感を持って課題に取り組み、技術が社会、自然環境におよぼす影響を自分なりに考慮して行動することができる。〔倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮〕[倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮]</p> <p>(B)数学、物理学などの自然科学や情報処理と工学の基礎知識を修得し、それを基礎的な課題に対して適用し分析、考察することができる。〔自然科学・工学の基礎知識応用能力〕[自然科学・工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(C)機械工学の基礎知識を修得し、理解することができるとともに、与えられた工学的な課題に対してそれらの知識を適用、応用して考察することができる。〔機械工学の基礎知識応用能力〕[機械工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(D)機械工学の専門知識を自分のものとし、得られた情報や学んだ科学・工学の知識や技術をベースに、与えられた各種制約の中で課題に要求される解決手法を導き、創造的なデザイン能力を身につけることにより、それを計画的に実現したりまとめたりすることができる。〔デザイン能力〕[デザイン能力]</p> <p>(E)実践に必要な設計・生産技術(ものづくりの技術)を学び、それを具体的な課題へ適用するとともに、最新の工学的ツールを駆使して問題を解決することができる。〔実践的な工学知識の遂行能力〕[実践的な工学知識の遂行能力]</p> <p>(F)多面的な視点を持って他者と協力してチームで作業を行うために必要な、自分の意見を明確に他者に伝える記述力およびプレゼンテーション能力を持ち、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を理解してもらうコミュニケーション能力を身に付けることができる。〔コミュニケーション能力〕[コミュニケーション能力]</p> <p>(G)工学の発展に関心を持ち、常に最新の情報を収集するとともに、それが自分に与えられた課題にどう反映できるかを考え、自主的にかつ継続的に生涯学習を続けようとする意欲がある。〔情報収集・生涯学習の継続能力〕[情報収集・生涯学習の継続能力]</p> <p>◆注:〔〕はディプロマ・サブメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示</p>										<p>「工学部ディプロマ・ポリシー」</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のよう方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、履修するものと、科目の達成を定量的に評価する科目を定める。</p> <p>1)人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</p> <p>2)機械・英語教育によって、英語による長期的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>3)必修・選択・専攻必修を科目によって、専門的知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</p> <p>4)実験・実習・探究演習(Project Based Learning、PBL)科目によって、自立的・継続的に学修する能力、論理的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働の意識を養う。</p> <p>5)技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。</p> <p>6)卒業研究に関する科目によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力ある専門的技術者として必要な能力を養う。</p> <p>◆注:〔3〕(4)〔5)〔6)を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>										<p>「機械工学部」</p> <p>機械工学部は、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)技術者としてグローバルで多面的な視野に立ち、高い倫理観、責任感を持って課題に取り組み、技術が社会、自然環境におよぼす影響を自分なりに考慮して行動することができる。〔倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮〕[倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮]</p> <p>(B)数学、物理学などの自然科学や情報処理と工学の基礎知識を修得し、それを基礎的な課題に対して適用し分析、考察することができる。〔自然科学・工学の基礎知識応用能力〕[自然科学・工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(C)機械工学の基礎知識を修得し、理解することができるとともに、与えられた工学的な課題に対してそれらの知識を適用、応用して考察することができる。〔機械工学の基礎知識応用能力〕[機械工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(D)機械工学の専門知識を自分のものとし、得られた情報や学んだ科学・工学の知識や技術をベースに、与えられた各種制約の中で課題に要求される解決手法を導き、創造的なデザイン能力を身につけることにより、それを計画的に実現したりまとめたりすることができる。〔デザイン能力〕[デザイン能力]</p> <p>(E)実践に必要な設計・生産技術(ものづくりの技術)を学び、それを具体的な課題へ適用するとともに、最新の工学的ツールを駆使して問題を解決することができる。〔実践的な工学知識の遂行能力〕[実践的な工学知識の遂行能力]</p> <p>(F)多面的な視点を持って他者と協力してチームで作業を行うために必要な、自分の意見を明確に他者に伝える記述力およびプレゼンテーション能力を持ち、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を理解してもらうコミュニケーション能力を身に付けることができる。〔コミュニケーション能力〕[コミュニケーション能力]</p> <p>(G)工学の発展に関心を持ち、常に最新の情報を収集するとともに、それが自分に与えられた課題にどう反映できるかを考え、自主的にかつ継続的に生涯学習を続けようとする意欲がある。〔情報収集・生涯学習の継続能力〕[情報収集・生涯学習の継続能力]</p> <p>◆注:〔〕はディプロマ・サブメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示</p>										<p>「工学部ディプロマ・ポリシー」</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のよう方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、履修するものと、科目の達成を定量的に評価する科目を定める。</p> <p>1)人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</p> <p>2)機械・英語教育によって、英語による長期的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>3)必修・選択・専攻必修を科目によって、専門的知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</p> <p>4)実験・実習・探究演習(Project Based Learning、PBL)科目によって、自立的・継続的に学修する能力、論理的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働の意識を養う。</p> <p>5)技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。</p> <p>6)卒業研究に関する科目によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力ある専門的技術者として必要な能力を養う。</p> <p>◆注:〔3〕(4)〔5)〔6)を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>										<p>「機械工学部」</p> <p>機械工学部は、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)技術者としてグローバルで多面的な視野に立ち、高い倫理観、責任感を持って課題に取り組み、技術が社会、自然環境におよぼす影響を自分なりに考慮して行動することができる。〔倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮〕[倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮]</p> <p>(B)数学、物理学などの自然科学や情報処理と工学の基礎知識を修得し、それを基礎的な課題に対して適用し分析、考察することができる。〔自然科学・工学の基礎知識応用能力〕[自然科学・工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(C)機械工学の基礎知識を修得し、理解することができるとともに、与えられた工学的な課題に対してそれらの知識を適用、応用して考察することができる。〔機械工学の基礎知識応用能力〕[機械工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(D)機械工学の専門知識を自分のものとし、得られた情報や学んだ科学・工学の知識や技術をベースに、与えられた各種制約の中で課題に要求される解決手法を導き、創造的なデザイン能力を身につけることにより、それを計画的に実現したりまとめたりすることができる。〔デザイン能力〕[デザイン能力]</p> <p>(E)実践に必要な設計・生産技術(ものづくりの技術)を学び、それを具体的な課題へ適用するとともに、最新の工学的ツールを駆使して問題を解決することができる。〔実践的な工学知識の遂行能力〕[実践的な工学知識の遂行能力]</p> <p>(F)多面的な視点を持って他者と協力してチームで作業を行うために必要な、自分の意見を明確に他者に伝える記述力およびプレゼンテーション能力を持ち、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を理解してもらうコミュニケーション能力を身に付けることができる。〔コミュニケーション能力〕[コミュニケーション能力]</p> <p>(G)工学の発展に関心を持ち、常に最新の情報を収集するとともに、それが自分に与えられた課題にどう反映できるかを考え、自主的にかつ継続的に生涯学習を続けようとする意欲がある。〔情報収集・生涯学習の継続能力〕[情報収集・生涯学習の継続能力]</p> <p>◆注:〔〕はディプロマ・サブメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示</p>										<p>「工学部ディプロマ・ポリシー」</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のよう方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、履修するものと、科目の達成を定量的に評価する科目を定める。</p> <p>1)人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</p> <p>2)機械・英語教育によって、英語による長期的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>3)必修・選択・専攻必修を科目によって、専門的知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</p> <p>4)実験・実習・探究演習(Project Based Learning、PBL)科目によって、自立的・継続的に学修する能力、論理的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働の意識を養う。</p> <p>5)技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。</p> <p>6)卒業研究に関する科目によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力ある専門的技術者として必要な能力を養う。</p> <p>◆注:〔3〕(4)〔5)〔6)を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>										<p>「機械工学部」</p> <p>機械工学部は、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)技術者としてグローバルで多面的な視野に立ち、高い倫理観、責任感を持って課題に取り組み、技術が社会、自然環境におよぼす影響を自分なりに考慮して行動することができる。〔倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮〕[倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮]</p> <p>(B)数学、物理学などの自然科学や情報処理と工学の基礎知識を修得し、それを基礎的な課題に対して適用し分析、考察することができる。〔自然科学・工学の基礎知識応用能力〕[自然科学・工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(C)機械工学の基礎知識を修得し、理解することができるとともに、与えられた工学的な課題に対してそれらの知識を適用、応用して考察することができる。〔機械工学の基礎知識応用能力〕[機械工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(D)機械工学の専門知識を自分のものとし、得られた情報や学んだ科学・工学の知識や技術をベースに、与えられた各種制約の中で課題に要求される解決手法を導き、創造的なデザイン能力を身につけることにより、それを計画的に実現したりまとめたりすることができる。〔デザイン能力〕[デザイン能力]</p> <p>(E)実践に必要な設計・生産技術(ものづくりの技術)を学び、それを具体的な課題へ適用するとともに、最新の工学的ツールを駆使して問題を解決することができる。〔実践的な工学知識の遂行能力〕[実践的な工学知識の遂行能力]</p> <p>(F)多面的な視点を持って他者と協力してチームで作業を行うために必要な、自分の意見を明確に他者に伝える記述力およびプレゼンテーション能力を持ち、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を理解してもらうコミュニケーション能力を身に付けることができる。〔コミュニケーション能力〕[コミュニケーション能力]</p> <p>(G)工学の発展に関心を持ち、常に最新の情報を収集するとともに、それが自分に与えられた課題にどう反映できるかを考え、自主的にかつ継続的に生涯学習を続けようとする意欲がある。〔情報収集・生涯学習の継続能力〕[情報収集・生涯学習の継続能力]</p> <p>◆注:〔〕はディプロマ・サブメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示</p>										<p>「工学部ディプロマ・ポリシー」</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のよう方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、履修するものと、科目の達成を定量的に評価する科目を定める。</p> <p>1)人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</p> <p>2)機械・英語教育によって、英語による長期的なコミュニケーション能力を養う。</p> <p>3)必修・選択・専攻必修を科目によって、専門的知識を体系的に身に付ける。特に重要な科目については、履修機会を確保して保証する。</p> <p>4)実験・実習・探究演習(Project Based Learning、PBL)科目によって、自立的・継続的に学修する能力、論理的思考力ならびにコミュニケーション能力や協働の意識を養う。</p> <p>5)技術者倫理に関する科目によって、技術者としての使命感ならびに倫理観を養う。</p> <p>6)卒業研究に関する科目によって、論文をまとめる論理的思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など、実践力ある専門的技術者として必要な能力を養う。</p> <p>◆注:〔3〕(4)〔5)〔6)を明確化したものが、各学科のCPとなる</p>										<p>「機械工学部」</p> <p>機械工学部は、工学部ディプロマ・ポリシーに基づき、専門学術の基礎と実践力を継承できるよう、学科として下記に掲げる能力を備えていると判断できる学生に対して卒業を認定する。</p> <p>(A)技術者としてグローバルで多面的な視野に立ち、高い倫理観、責任感を持って課題に取り組み、技術が社会、自然環境におよぼす影響を自分なりに考慮して行動することができる。〔倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮〕[倫理観・責任感・技術の社会的影響の考慮]</p> <p>(B)数学、物理学などの自然科学や情報処理と工学の基礎知識を修得し、それを基礎的な課題に対して適用し分析、考察することができる。〔自然科学・工学の基礎知識応用能力〕[自然科学・工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(C)機械工学の基礎知識を修得し、理解することができるとともに、与えられた工学的な課題に対してそれらの知識を適用、応用して考察することができる。〔機械工学の基礎知識応用能力〕[機械工学の基礎知識応用能力]</p> <p>(D)機械工学の専門知識を自分のものとし、得られた情報や学んだ科学・工学の知識や技術をベースに、与えられた各種制約の中で課題に要求される解決手法を導き、創造的なデザイン能力を身につけることにより、それを計画的に実現したりまとめたりすることができる。〔デザイン能力〕[デザイン能力]</p> <p>(E)実践に必要な設計・生産技術(ものづくりの技術)を学び、それを具体的な課題へ適用するとともに、最新の工学的ツールを駆使して問題を解決することができる。〔実践的な工学知識の遂行能力〕[実践的な工学知識の遂行能力]</p> <p>(F)多面的な視点を持って他者と協力してチームで作業を行うために必要な、自分の意見を明確に他者に伝える記述力およびプレゼンテーション能力を持ち、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を理解してもらうコミュニケーション能力を身に付けることができる。〔コミュニケーション能力〕[コミュニケーション能力]</p> <p>(G)工学の発展に関心を持ち、常に最新の情報を収集するとともに、それが自分に与えられた課題にどう反映できるかを考え、自主的にかつ継続的に生涯学習を続けようとする意欲がある。〔情報収集・生涯学習の継続能力〕[情報収集・生涯学習の継続能力]</p> <p>◆注:〔〕はディプロマ・サブメントシステムにおける学部および学科のディプロマ・ポリシー達成度項目を明示</p>										<p>「工学部ディプロマ・ポリシー」</p> <p>工学部ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を備えた人材を育成するために、以下のよう方針に基づいて必要な科目を開設し、学習者が主体的に学修できる科目を選定し、履修するものと、科目の達成を定量的に評価する科目を定める。</p> <p>1)人文科学、自然科学、情報技術、数理・データサイエンス、経営、知的財産および環境共生などに関する科目によって、技術者に求められる幅広い教養を養う。</p> <p>2)機械・英語教育</p>									

